麻酔を受けられる患者様へ

一般財団法人 京都地域医療学際研究所　がくさい病院　病院長

麻酔法はめざましく進歩し、手術や痛みを伴う検査をより苦痛がなく、安全に行うことができるようになっています。しかし安全である麻酔とはいえ、その方法や手術の内容、患者様の状態によっては、手術前後によくないことが起こることも稀ではありません。そのため、主治医や麻酔専門医は患者様の全身状態を良好に保ち、患者様の身体への影響を最小限にするように、麻酔管理を行い、片時も目を離さず、全身状態を常に観察しています。

そこで、手術のために麻酔を受けられる患者様やご家族に、麻酔や麻酔に伴う危険性、手術について詳しく説明し、理解を深めて頂きたいと思います。かえって不安感が強まったり、麻酔に対して心配されることが多くなるかもしれませんが、ここに示しましたのはあくまで可能性のある事であり、これらのことが現実化しないよう主治医や麻酔専門医が全力を尽くしております。

危険性についても知って頂くことによって、手術や麻酔への理解が深まり、納得して手術・麻酔を受けて頂けると思います。

わかりにくい点がございましたら、遠慮なく主治医や麻酔専門医、または看護師にお尋ね下さい。

麻酔説明書

＊　全身麻酔について　＊

そのままでは痛みを伴う手術を痛みを感じることなく安全に行うために、薬によって一時的に意識をなくすものです。手術の途中に目が覚めてしまうようなこともありません。麻酔中は麻酔専門医が常にそばで細心の注意を払って、血圧や呼吸状態などを含めた全身管理を行い、患者様の安全を守っています。

＊　麻酔の危険性について　＊

ほとんどの場合麻酔は安全に行われますが、ある程度の危険性を伴います。出来る限りの予防策を講じますが、合併症や後遺症を生じることがあり得ます。

手術中に起こり得る合併症として、気道閉塞や気管支痙攣、高度な高血圧や低血圧、不整脈、アレルギー反応、ショック、悪性高熱、心停止、心筋障害、大量出血など極めて稀ではありますが起こる可能性があります。仮にこのような合併症が生じても速やかに適切な治療を行い、全身状態の改善に努めます。

＊　その他の危険性について　＊

全身麻酔で意識がなくなると同時に、呼吸をする力が非常に弱くなります。そのため麻酔で眠っている間は口から呼吸を助ける管を入れます。その際に入れ歯が入っていたり、ぐらぐらしている歯があるときは気管に管を入れるときに折れたり、抜けたりすることがあります。正常な歯でも口を大きく開けにくいときは稀に折れることがあります。

虫歯や歯槽膿漏などの炎症がある場合は、肺炎を起こしやすいので必ず申告して下さい。

また眠っている間に管を入れていた影響で、目が覚めてから咽頭痛が生じることがあります。一時的なものですので様子を見て下さい。その他、麻酔薬の影響で術後嘔気・嘔吐が生じることがあります。乗り物酔いやめまいを起こしやすい方はお知らせ下さい。適宜対処します。